

会 議 録

1 会議名

令和7年度第5回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的な審議】

- ・自主的審議について（公開）

3 開催日時

令和7年11月18日（火）午後6時30分から午後8時25分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委員： 坪田会長、横田副会長、安達（光）委員、笠原委員、京谷委員、
佐藤（和）委員、佐藤（幸）委員、白滝委員、田村委員、中原委員、
番場委員（欠席者1名）

- ・事務局： 北部まちづくりセンター 内藤所長、勝島副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【勝島副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：安達（光）委員に依頼

議題【自主的な審議】自主的審議について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

・資料No.1 「令和7年度 第5回谷浜・桑取区地域協議会 自主的審議について」

ア．伝統行事、史跡、文化の継承について

イ．地域で行われている行事について に基づき説明

前回の協議会後にも、地域の行事があったと思う。委員間で共有しておきたいことがあれば、発言をお願いしたい。

【坪田会長】

前回もそのような形の中で委員から話を聞かせてもらった。行事等に参加したりして、委員間で共有しておきたいこと、皆さんに聞いていただきたいことがあれば発言をお願いする。

【白滝委員】

谷浜駅の小学生のイベントは大変盛り上がっていた。谷浜・桑取区には地域外からも訪れて学習する魅力があるのだろうと思う。

【坪田会長】

地域外の学校が谷浜・桑取に来て、学習している現状がある。私もここ3年間ほど、いくつかの学校を受け入れて、谷浜駅や海、くわどり湯ったり村（以下：湯ったり村）やくわどり市民の森で子どもたちと活動したことがある。どういうことか、谷浜に来ていただいてありがたいことである。学校へ出向いて授業で話をしたり、給食を一緒に食べたり、子どもと付き合っているとこちらも元気が出るし、私自身は嫌いなことではないので、この間は随分と若返った。

くわどり収穫祭は、今年はどんな感じだったか。毎年行っていたが、今年は都合が悪く、行けなかった。聞いた話によると、去年よりも少し来場者は増えたようである。地域外からも大勢来られているような感じがする。やはりこれは続ければ続けるほど、皆さんに浸透して、桑取のすばらしい新鮮な野菜等を求めて来る方がおられるのではと思う。

サケ漁も11月1日からやっているが、なかなかサケが上がらないようで、未だに7匹くらいと聞いている。潮陵中学校で11月14日にサケ漁の体験学習を行った時は、2匹しか上がらなかったそうである。漁業組合長が、北海道を除いて全国を見ても、こんな体験学習ができる場所はないと称賛していた。

【佐藤（幸）委員】

くわどり収穫祭についてだが、去年、私は売り子をさせてもらった。なぜ売り子をし

たかという、収穫祭には、ずっと天然の山芋が出ていない。友人からどうしても山芋を提供してほしいと頼まれ、10本ほど提供し私が売り子をした。今年も、山芋を提供した。山芋が売られているのと売られていないのでは全然違う。山芋を目指して来るお客さんがいるそうだ。

今回はもう終わったが、来年のことを考えて、この山芋をたくさん収穫してアピールすればいいのではないかと個人的に思っている。来られる方も、山芋が売っていないとがっかりすることもあるので、今後の課題ではないかと思う。

【横田副会長】

今の佐藤（幸）委員の話にあった山芋については、私の父親が元気だった頃、収穫祭に30kgから50kgくらい山芋を出していた。何年か続けたが、イノシンが出るようになって、大事な山芋を全部先に掘られたり、後継者不足から田んぼが増えてきて、とてもではないが山芋堀はやれなくなり、最近は掘っていない。余裕があれば来年また掘ってみようと思う。最近は、イノシンやクマが出るので、どのように防御するかということも含めて、いい知恵があったらまた皆さんにお聞きしながらやってみたいと思う。

【坪田会長】

では来年、また収穫祭へ行きたいと思う。私の中では、くわどり収穫祭といえばやはり山芋と笹餅がないと寂しい。みんなが求めているものは、意外と貴重で数量が少ないものであったりする。笹餅も、作る方が今はなかなかおられない。山芋も横田副会長の言うように、いろいろな諸条件があってなかなか取れない。入手が難しくなっているからこそ、人が求めているのだと思う。

ほかに意見を求めるがなし。

地域協議会の委員としても、地域の行事等に参加していただきながら、課題点を見つけ、改善策について話し合っていたきたい。12月18日木曜日に、谷浜小学校の授業の中で、神楽の発表会があるということなので、是非足を運んでいただき、参考にいただければと思う。

次の項目に移る。

事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

・資料No.1「令和7年度第5回谷浜・桑取区地域協議会次は自主的審議について」

ウ．学校を取り巻く環境について

エ．移住・空き家対策について に基づき説明

12月14日日曜日に、板倉区で上越市創造行政研究所の「持続可能な地区別まちづくり推進事業」（以下、地区まち）の成果発表会がある。そちらを先進地視察として、協議会の皆さんで見学に行ってはどうかと考えている。

【内藤所長】

板倉区で本年度始めたプログラムの最終成果発表がある。これまでやってきたことの成果や、検討結果の報告ということで、皆さんと一緒に地区まちについて勉強したいと思っている。板倉区だけではなく、大島区、牧区のこれまでの地区まちの活動報告や藤山所長のミニ公演もこの中で行われるということである。お忙しい時期ではあるが、是非ご参加いただきたい。

【坪田会長】

質問等はあるか。

【白滝委員】

地区まちの講演があるとのことで大変ありがたい。谷浜・桑取区の全住民から聞いてもらいたいくらいの話だと思う。谷浜・桑取区で実施する際、地域住民を集める方法を皆さんと考えていきたい。個々に伝えるのはもちろんだが、いい方法はないか。大勢集めて、みんなに聞いていただきたい。

【坪田会長】

今回はまずは地域協議会委員から、1人でも多くの方に参加していただきたいお願いということである。なるべく都合をつけて、万障お繰り合わせいただければありがたい。

藤山先生のお話は、私も3回くらい聞いているが、大変すばらしい。話しぶりも、はきはきしていてみんなに分かりやすいし、谷浜、桑取のことも熟知されている。私たちは地域協議会という1つの役割を持っているので、そういったことでも参考になると思うので、是非1人でも多くの方から参加していただきたい。

次の項目に移る。事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

- ・資料No.1 「令和7年度第5回谷浜・桑取区地域協議会次は自主的審議について」

オ くわどり湯ったり村について に基づき説明

経営者である（株）ゆめ企画名立（以下：ゆめ企画）と意見交換するにあたり、地域の声を集めているところである。10月27日に市の観光振興課と、ゆめ企画が情報交

換会を行った。北部まちづくりセンターも同席したので、そこであった話を簡単に報告する。

【内藤所長】

ゆめ企画では、今年1年は、従前の運営を把握する期間としているということだった。宿泊業の取り組みは、プロとして任せる部分であるが、谷浜・桑取区のシンボリックな施設という部分については、まだ状況把握している段階ということである。そのためにも地域の声を聞いたり、NPOかみえちご山里ファン倶楽部（以下：かみえちご）と連携する等して、集客に結びつけたいという考えをお持ちで、地域との関係づくりを模索しているということだった。地域協議会の皆さんとの意見交換も是非とおっしゃっていただいている。地域協議会から、ゆめ企画に伝えることを整理して、意見交換の場を設けていきたいと思っている。

【丸山主任】

湯ったり村に関する思い出や、地域のシンボルであることを文字化するために、10月10日締め切りで委員の皆さんからコメントを書いていた。資料には、皆さんから出てきた意見を掲載している。「地域が交流する場」「地域の頼れる飲食店・宿泊施設」「地域を地域外にPRする場」の3つの項目に整理した。今日は1人1人の意見を見ながら話し、地域協議会の意見として伝えたいことを明確にしていきたい。話しやすいように2つのグループに分かれて話したいと思う。

Aグループは、安達委員、京谷委員、白滝委員、番場委員、横田副会長。

Bグループが、笠原委員、佐藤（和）委員、佐藤（幸）委員、田村委員、坪田会長、中原委員に分かれて話をしたい。

【坪田会長】

グループごとに分かれてもらうが、これからは事務局に入ってもらい、進行をしていただく。

質問等を求めるがなし。

では19時50分を目途に、グループ討議を行い、まとめたものを発表していただくような形を取りたい。

ー グループ討議 ー

【石崎係長】

Aグループ

「地域が交流する場所」としては、湯ったり村と地域の連携をもっと深めてほしいということで、例えばかみえちごのイベントを湯ったり村のチラシに掲載する等、もっと地域内外へのPRを強化してほしい。インスタなども活用してもっとPRをしてもらいたい。また、レストランは昼の営業から夜の営業まで一旦休み時間があるので、例えば自動販売機を置いて、食べ物を常に提供できるようにする等、もっと利用しやすくすることで時間を選ばず地域が交流する場所として、より良くなっていくのではないかとという意見が出た。

「地域を地域外にPRする場」としては、今リピーターはいるが徐々に減っていて、新規客がいないようなので、これもPRが大事だということだった。湯ったり村に足を運んだ人ががっかりしないよう、体制づくりをしてもらいたい。地域外へのPRは大学生の合宿などを呼び込んで使ってもらうことも1つ。合宿で訪れた大学生等を、住民の人たちが応援する等のつながりができると、面白いのではないか。また、雪がない地域の外国の方に来てもらうことによって、地域の魅力の1つである雪を活かしたりはできないだろうかという話があった。

「地域の頼れる飲食店・宿泊施設」としては、人数が少ない世帯では利用をためらってしまうというところもあるようだが、送迎サービスが充実しているという話も聞くので、その点をPRすれば地元の利用をもっと促進されると意見があった。帰省利用はよく聞かれるので、帰省者用のプランなどを使って「帰省のときぐらいは地元の親族みんな泊まって、家事もお休みしてみんなで楽しよう」といった形で、地域に活用を促すこともいいのではないかとというような話があった。

【丸山主任】

Bグループ

「地域が交流する場所」について皆さんで掘り下げ話をした。地域では各総会、役員会、納涼会、忘年会など年4回以上、打ち合わせを含めるともっと、湯ったり村を利用している。老人会、消防団も利用しており、地域のイベントや行事の反省会は、必ず湯ったり村を利用している実態がある。だから気持ちよく使いたい。今は少し心配な部分が多い。例えば、玄関や受付にスタッフがいないので、出迎えもないように感じていて、地域外のお客様が訪れた際も、気持ちよく入館できるようになってほしいという意見が

出た。

「地域を地域外にPRする場」としては、オートバイの団体が年に一回、毎年貸切って利用されている点が話題になった。湯ったり村への道のりは、道が狭く曲がりくねっていて、アクセスは良いとは言えないが、オートバイの団体はそのくねくね道を楽しんで集まっている。だからくねくねの道や谷の自然を味わう道を求めている人もいないのか、独自の魅力をきちんと打ち出した方がいい。先ほどの山芋のような名物で「くわどり湯ったり村といたらこれ」というようなもの作ることについて、地域として一緒にやっていきたいという意見が出た。

湯ったり村を出発地点にしたサイクリング体験も始まっているようだが、枝木が落ちていたり、グレーチングの幅がロードバイクに適應していなかったり、苔むしていて滑りやすかったりと危険な場所がある。地域住民として気が付いている点もあるので、地域外のお客様に積極的にサイクリングを売り出す際は、留意しなければならないと感じている。宣伝しているのに整っていない部分があるので、頼まれれば地域は動く体制はできるかもしれない。県の振興局などに伝えて、仕事として地域に依頼されれば、協力できる部分があるのではないのかという話があった。

「地域の頼れる飲食店・宿泊施設」としては、利用者としてうみてらす名立へ行ったとき、満足感を得て帰ってこられる点を、湯ったり村でも取り入れてほしい。宿泊について電話で問い合わせたところ、断られた経験もある。その経験や印象から、利用予約を見送っている人もいると思うので、新経営者となって、受け入れ体制も整っている点を今一度地域住民にも知らせてほしい。湯ったり村を応援する意味で、いろいろと意見を言いたいことがあっても、意見を受け止めてくれる場所が見えない。これからの地域との関係づくりに期待したいとの意見が出た。

【坪田会長】

活発な意見をいろいろ出していただいた。これを事務局でまとめて、湯ったり村や市の観光振興課と協議しながら、より良い方向にしていただければありがたい。地域のシンボルとして、営業して頑張ってもらいたいという、皆の意を汲みながら良くしようとしているのだから、まず地元の総意を感じ取ってもらいたい。これからかみえちごや桑取会等とも意見を交わしながら、地域の意見としてまとめ、より良い方向に進めていきたい。

その他、事務局何かあるか。

【丸山主任】

- ・次回協議会：会長と協議の上決定

【坪田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。